

表現語いの少ない知的障がい児における文章理解の獲得

Acquisition of reading comprehension skills for a student with intellectual disabilities with limited expressive vocabulary

○大森幹真^{1,2,3}・山本淳一¹

慶應義塾大学文学部¹・日本学術振興会²・(独) 国立精神・神経医療研究センター³

○Mikimasa Omori^{1,2,3}・Jun-ichi Yamamoto⁴

Keio University, Department of Psychology¹・Japan Society for the Promotion of Science²・
National Center for Neurology and Psychiatry³

keywords: Reading comprehension, Intellectual disabilities, Segment-unit reading, Matching-to-sample

問題と目的

文章理解の向上には、同じ文章での繰り返し読み訓練が効果的である (Ambruster, Lehr, & Osborn, 2003)。だが近年の研究では、文章全体での繰り返し読みではなく、意味のまとまりをなす文節を単位とした時系列的な刺激提示による、繰り返し読み訓練の方が、知的障がいのある児童の文章理解がより向上することを示している(中川・大森・菅佐原・山本, 2013)。また表現語いの少ない知的障がい児に対して、文節単位読み訓練を行うことで、絵刺激への選択反応により、文章理解の向上を示した。(Omori & Yamamoto, 2014)。しかし、そのような児童が質問文に対して音声反応を行い、文章理解が向上するかは、まだ明らかにされていない。本研究では、知的障がい児1名を対象に、文節単位読みと見本合わせ課題を組み合わせた訓練により、音声反応による理解問題への反応が表出し、文章理解が向上するかを検討することとした。

方法

参加者: 知的障がいのある小学校1年生の男児1名。
刺激: 80文字から100文字で構成された文章を10個用意した。また、各文章の内容に対応して、「いつ」「どこ」「だれ」「なに」「どうだった」を問う質問文を5つずつ設定した。

実験デザイン: Pre-Postデザイン

手続き: (1) Pre test: コンピュータ上に提示された文章を読むことを求めた。その後、読んだ文章内容に対応した5つの質問に口頭で答えることを求めた。

(2) 文節単位読み訓練+見本合わせ課題訓練 (TR SUR + MTS) (図1参照): Pre testで提示した文章全体を構成する、文節の持つ空間的な位置関係を保持したまま、その文節を単位として繰り返し読みを行うことを求めた。文節単位読み訓練(Segment-unit reading, 以下SUR)の終了後に、質問文が提示され、それに対応する文字刺激を選択する見本合わせ(matching-to-sample, 以下MTS)課題を実施した。

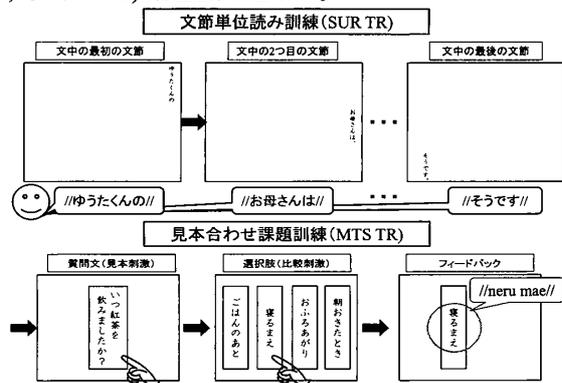


図1. SUR+MTS訓練の流れ

訓練は、MTS課題の正答率が、2試行連続で100%、または3試行連続で80%以上であった場合に、終了した。

(3) Post test: Pre testと同じことを行ったが、提示される質問文の順番をPre testのものに変更した。

(1)~(3)が終了した後に、新規文章のテストと訓練を開始した。

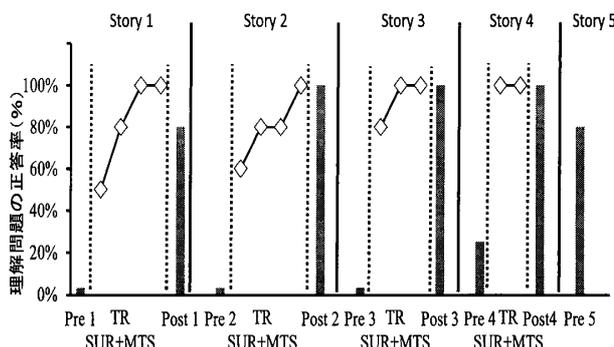
従属変数: (1) Test時の音声反応による理解問題の正答率。(2) 訓練時のMTS課題の正答率。訓練時に、2ブロック連続で正答率が100%、もしくは3ブロック連続で正答率が80%以上の時に、訓練を終了した。

結果と考察

参加者1名の結果の推移を図2に示した。

図2. 参加者の理解問題正答率の推移

■ テスト時の正答率 (音声反応) ◇ 訓練時の正答率 (選択反応)



本研究から、文節単位読み訓練+見本合わせ課題訓練により、知的障がい児1名の文章理解が向上したことを示した。さらには、訓練時に選択反応であるMTS課題を行い、正反応時に音声による分化結果を対提示した。そのため、理解問題に対する解答で、選択反応から音声反応への派生が見られた。また、本参加者は、テスト-訓練サイクルを4つ繰り返すことで、5つ目の新規文章を読んだ時に、音声反応による文章理解が可能となった。

今後の展望としては、文章数を増やしStory 5と同様の結果が表れるかを検討することとする。また、文章全体での繰り返し読み訓練とMTS課題を組み合わせた場合とで、訓練時に達成基準までに必要となった訓練回数や、Post testでの理解問題の正答率を比較する。

引用文献

中川浩子・大森幹真・菅佐原洋・山本淳一 (2013). 知的障害を伴う自閉症のある生徒における文節単位読み訓練の効果 特殊教育学研究, 51, 269-278.